



「蟻通明神」、「蟻通神社」という、ちよつと変わった名で知られる丹生川上神社中社。吉野郡東吉野村小の、四郷、高見、日裏の三つの川が合流するあたりにある。静寂の中、深い杉木立に囲まれて古式な社殿が建つ。この「蟻通」にまつわるお話。昔、ある天皇が、都から老人を追放した。ところが、ある中将だけは、老父母をひそかに家に住まわせていた。

その頃、唐の皇帝が日本征服を狙い、知恵試しの難題をふっかけてきた。困った天皇は、中将にその難題を解かせた。

曲がりくねって、中に細い穴のあいた玉に紐を通せというもの。中将は考えあぐね、こっそり老父母に相談した。「穴の一方に甘い蜜をつけ、他方から糸を結びつけた蟻を入れるといい」。蟻は蜜の甘い香りに誘われて玉の中を見事に通り抜け、

蟻通明神

紐を通した。唐の皇帝はほかにも難題を出したが、どれも老人の知恵で解決。唐はついに日本の征服を諦めたという。そして老人の大切さが分かり、都にはまた老人が戻った。中将は死後蟻通明神として祀られた。

「蟻通明神」は和泉国（大阪府泉佐野市）にもあり、こちらは紀貫之の和歌や「枕草子」、世阿弥の能「蟻通」にも登場する。東吉野村の蟻通神社は、平



朱色の鳥居の向こうに見える、檜皮葺の壮大な社殿。背後は小牟漏岳のうっそうたる原始林で、歴史の重みが漂う。周辺の紅葉はとくに鮮やかだ。



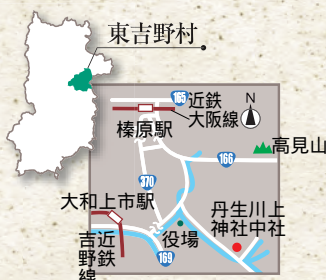
丹生川上神社中社の秋祭り。小川8カ村から8台の太鼓台が拝殿右手の広場に繰り出す。豪華絢爛、また、荒々しい祭りとしても知られる。今年の祭りは10月14日。

安時代末、ここから勧請されたという。

ところで、丹生川上神社は、もともと平安時代の記録にある古い神社で、祭神は、水を司る神の「罔象女神」。農耕の守護神として尊ばれ、降雨、止雨の祈願が、天皇やその使いによってたびたび行われた。だが、戦国時代の争乱で神社も衰退し、所在も不明となっていた。やがて、大正十一年、ここが丹生川上神社中社に比定され、官幣大社に昇格した。

一方で、蟻通神社は、小川郷八カ村の土地神として敬われ、今も地元の人々から「蟻通さん」と親しまれている。十月中旬には、境内で、豊作を祝う村をあげての「秋祭り」が賑やかに行われる。

丹生川上神社中社へは...
奈良交通バス「蟻通」で下車すぐ。
「榛原駅」より約50分。または「大和上市駅」より約70分。



図丹生川上神社中社 0746・42・0032